



東方組太鼓踊り

東方組(ひがしかたぐみ)太鼓踊り<町指定無形民俗文化財>

熊本県南部に広く分布する臼太鼓踊りの一つで、源平合戦に材をとり、「東下り」と称し、最も勇壮活発な太鼓踊りとして知られています。演目は進軍・緒戦・総大将の踊り・脇の踊り・歌の陣(うたんじ)・めぐりうち・棹競(ぜき)があり、頭1人、脇2人・説敵大将1人・関2人・鉦4人・説敵兵士4人で構成されています。

かつては早魃(かんばつ)時の雨乞いにも踊られ、西南戦争時には、焼き討ちの難をのがれ、夜もすがる踊り祝ったという話が残っています。

太鼓の胴内には、「宝永」「安政」の銘がみえ、歴史の古さを物語っていますが、薩摩から伝わったもののようです。